

2020年2月9日(日)朝10:10～
2月第2里親共同主日礼拝式説教

主の降誕節第7、定例役員会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題:主の裁きの日には(24節)

聖書:マタイ 11章20～24節

<口語訳>

新約聖書16～17頁

マタイ 11章20～24節

<新共同訳>

新約聖書20～ 頁

マタイ 11章20～24節

<新改訳第3版>

新約聖書20～ 頁

マタイ 11章20～24節

<塚本訳>

新約聖書98～ 頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。

◇本日のマタイ11:20～24は、「主の裁きの日には(24節)」の説教主題が示すように、「主の裁きの日」で、「天の国は、激しく襲われている」(12)(「天の国を人々が、が熱心に求めている」)に対して、「神の御子イエス・キリスト様の真実の怒り」が、提示されています。

⇒神の怒りは、神が御子イエス・キリスト様を地上に遣わし、罪人である私たちを神の怒りから助け出し、身代わりに御子イエス・キリスト様を十字架につけ、その神の怒りへの代償・贖いによって、宥められたのです。

⇒「天の国は、激しく襲われている」(12)(「天の国を人々が、が熱心に求めている」)人々は、天の国・神の義を知るのです。

⇒神の怒りは、神が義なるがゆえであり、神の怒りを宥めるとき、神の贖いが成立する。

本論；

◇本日、マタイ書11章20～24節から主の 使
信に思い・心noujをとめます。

◆マタイ11章20～24節；使徒マタイは、神の
御子イエス・キリスト様が、神の怒りに対し、神の怒
りを十字架の死をもってして受けることで、「天の
国は、激しく襲われている」で示された ように、
神の義であるが証明、神の知恵の正しいことが明
らかにされると語りました。

◇11:20～24節；塚本訳◆ガリラヤの町々を叱
られた

「20 それから、数多くの奇蹟を行っていただいた
町々が悔改めなかったので、これを叱り始めら
れた、

21 「ああ禍だ、お前コラジン！ああ禍だ、お前ベ
ツサイダ！わたしがお前たちの所で行っただ
けの奇蹟をツロヤシドンで行ったなら、(あの
墮落町でも、)とうの昔に粗布を着、灰の中で
悔改めたにちがいないのだから。

22 ところでお前たちに言うが、裁きの日には、ツ
ロヤシドンの方が、まだお前たちよりも罰が軽
いであろう。

23 それから、お前カペナウム、(わたしに特別に

可愛がられたからとて、)まさか『天にまで挙げられる』などとは思っていないだろうね。(天に挙げられるどころか、)『お前は黄泉にまでたたき落されるであろう。』お前の所で行っただけの奇蹟をソドムで行ったなら、(あの墮落町でも、)きょうまで滅びずにいたにちがいないのだから。

24 ところでお前たちに言うが、裁きの日には、ソドムの地の方が、まだお前よりも罰が軽いであろう。」と、使徒マタイは主のことばを語っています。

◇マタイ11:20～24節;「それから、数多くの奇蹟を行っていただいた町々が悔改め なかったなので、これを叱り始められた(20)」、「ああ禍だ、お前コラジン！ああ禍だ、お前ベツサイダ！わたしがお前たちの所で行っただけの奇蹟をツロヤシドンで行ったなら、(あの墮落町でも、)とうの昔に粗布を着、灰の中で悔改めたにちがいないのだから(21)」、「ところでお前たちに言うが、裁きの日には、ツロヤシドンの方が、まだお前たちよりも罰が軽いであろう(22)」、「それから、お前カペナウム、(わたしに特別に可愛がられたからとて、)まさか『天に

まで挙げられる』などとは思っていないだろうね。(天に挙げられるどころか、)『お前は黄泉にまでたたき落されるであろう。』お前の所で行っただけの奇蹟をソドムで行ったなら、(あの墮落町でも、)きょうまで滅びずにいたにちがないのだから(23)、「ところでお前たちに言うが、裁きの日には、ソドムの地の方が、まだお前よりも罰が軽いであろう(24)」と、**神の御子イエス・キリスト様**は、「コラジンとベツサイダ」の罪が、「ツロや シドン」の罪より重い、「カペナウム」の罪が、「ソドム」の罪より、重いと語られ、「**主の 裁きの日(24節)**」の裁定は、厳しいと、宣言されました。

◆「コラジン」の町も、「ベツサイダ(漁の町)」も、「カペナウム(ナホム《慰め》の町)」も、ガリラヤ湖畔の町で、海洋貿易で栄え、高ぶって滅びた「ツロやシドン」、ロトや アブラハムの時代、偶像礼拝などの罪で 滅びた「ソドム」より罪が、重いのです。それは、**神のことば**に耳を傾けず、悔い改めなかったからです。

⇒今の時代では、**主日の神礼拝**で、主日礼拝厳守ではなく、**神**に聴き従うのは、日曜だけではなく、日々の生活においてです。

- ⇒日曜日の礼拝を大切にするのは、週の初めの日を主にご復活を記念して、使徒たちが集まったからです。教会が、主のからだ(信仰共同体)であることを確認し、聖霊の臨在の中に生きる恵みを共有するのです。
- ⇒聖餐式の心と同じで、主を記念し、互いが愛し合うためです。
- ⇒人は、目に見えない**神**を礼拝しますが、人間となって下さった**御子イエス・キリスト様**を使徒たちがあかしし、使徒たちも、再び見える形で、ご自身を現して下さる**御子イエス・キリスト様**を待つため、集まりをやめなかったのです。
- ⇒目で見える教会は、主の時代も、人の時代も大事であったように、聖霊が臨在して下さる今の時代こそ、より大事です。

結論；

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。

◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。

◇本日のマタイ11:20～24は、「主の裁きの日には(24節)」の説教主題が示すように、「主の裁きの日」で、「天の国は、激しく襲われている」(12)(「天の国を人々が、が熱心に求めている」)に対して、「神の御子イエス・キリスト様の真実の怒り」が、提示されています。

⇒神の怒りは、神が御子イエス・キリスト様を地上に遣わし、罪人である私たちを神の怒りから助け出し、身代わりに御子イエス・キリスト様を十字架につけ、その神の怒りへの代償・贖いによって、宥められたのです。

⇒「天の国は、激しく襲われている」(12)(「天の国を人々が、が熱心に求めている」)人々は、天の国・神の義を知るのです。

⇒神の怒りは、神が義なるがゆえであり、神の怒りを宥めるとき、神の贖いが成立する。

⇒ヘブル12:11;塚本訳

11 あらゆる訓練(というものは、その当座は喜びとは見えず、かえって悲しみと見えるが、しかしあとで、それで鍛えた者に(まことの)義の実である平安を与えるのである。

⇒「**主の裁きの日**(24節)」は、罪に留まり、**神礼拝**を軽んじ、悔い改めをしない人には、災いの日ですが、罪赦された恵みの十字架を背負わせていただく者にとっては、荷は軽く、しかも、主が背負って下さるので、一層軽快な生活が備えられているのです。